

石巻専修大学

「石巻専修大学」ホームページ
http://www.senshu-u.ac.jp/shinomaki/

石巻専修大学
広報係
☎986-8580
宮城県石巻市
南境新水戸1番地
☎0225-22-7743(直)

2018年4月
創立30年を
迎えます

大学の研究 私立研究ブランディング事業に選定

循環型養殖法を確立

地域産業創出、復興支援へ

文部科学省が今年度から実施する「私立大学研究ブランディング事業」に、石巻専修大学が申請した「震災復興から地域資源の新結合による産業創出へー草葉起源による内水面養殖業の創出ー」が選定された。

尾池守学長は「地域と共生する大学として、地域が持つ資源を組み合わせて新たな魅力を発信する。創出した産業をブランド化させ、定着させた

む。自然科学、社会科学、人文科学の研究活動を横断的に結び、生物・環境・情報工学の融合により新たな養殖法を開発、事業化や人材育成につなげる。津波被害で利用されなくなった東松島市の農地を活用して復興を後押しするとともに、地域の産業や雇用の創出を図る考えだ。

内水面養殖を確立する。研究は、未利用農地で栽培する牧草などから養殖用餌料を開発し、飼育水槽を利用した循環型の養殖システムの確立を目標とする。事業期間は3年間で理工学部、経営学部、人間学部、共創研究センター(中込真二センター長)が共同で取り組

む。自然科学、社会科学、人文科学の研究活動を横断的に結び、生物・環境・情報工学の融合により新たな養殖法を開発、事業化や人材育成につなげる。津波被害で利用されなくなった東松島市の農地を活用して復興を後押しするとともに、地域の産業や雇用の創出を図る考えだ。

同事業は独自色ある研究に取り組み私立大に、経常費・設備費などを支援する。本学が選定されたタイプA(社会展開型)地域の経済・社会、雇用の発展などに寄与する研究)は、全国129校が申請し、事業の実施体制と内容が総合的に審査され、支援対象17校が11月22日に発表された。東北・北海道からは2校。



事業イメージ図

石巻専修大学は2007年に中国・温州大学と国際交流協定を結び、10年から1年間の交換留学生を相互に受け入れている。昨年度までに10人が本学に留学し、日本の文化に触れてきた。今年度は国際経済貿易専攻4年次の陳鈞怡(チン・キンイ)さんが経営学部、広告専攻4年次の草嵐芳(イ・ランホウ)さんが人間学部(留学期間は9月から17年8月まで)。



キャンパスライフを楽しむ陳さん(左)と草さん=本学図書館で

専攻していた国際経済についても知識を深め、勉強以外にもたくさんのお話を積み重ねてきた。中国語、英語、日本語を生かして広告業界で働きたい」と言う草さんは「日本語は相手に対する思いやりや礼儀を備えた美しい言葉。早く習得して先生や友人たちと日本語で交流したい。大学周辺の風景がとても好きで、下校時に見る北上川の夕日が気に入っています。日本の文化に触れ、将来の夢につなげたい」と意気込みを話した。

本学と米ランドルフ・メイコン大学との交流事業を支援したテイラー・アンダーソン基金のアンダーソンとジョンさんのアンダーソン夫妻が11月8日に来学した。同基金は東日本震災で犠牲となったテイラーさんの両親である夫妻が娘の遺志を継いで設立。尾池守学長が交流事業への尽力や「テイラー文庫」の寄贈などに対して謝意を述べ、感謝状を贈呈した。

小学校でクルマの特別教室 機械工学科・山本教授と4年次生が開講

自動車工学を専門とする工学コースで学ぶ4年生13人が11月25日、石巻市立山下小学校で特別教室を開講した。特別教室は公益社団法人自動車技術会東北支部との共同で2014年から実施。「自動車の将来と電気自動車の構造について」がテーマの今回は、5年生35人が参加した。ガソリン車から電気自動車への変化について説明した後、ソーラーバッテリー付き電気自動車模型を作った。児童たちは学生のサポートを受けながら、熱心に組み立てを行い、完成した模型が走行すると歓声をあげていた。



「自動車の将来と電気自動車の構造について」がテーマの今回は、5年生35人が参加した。ガソリン車から電気自動車への変化について説明した後、ソーラーバッテリー付き電気自動車模型を作った。児童たちは学生のサポートを受けながら、熱心に組み立てを行い、完成した模型が走行すると歓声をあげていた。



宮城県の公立小学校教員採用試験に、阿部智子さん(人間4・宮城県石巻市立女子高)現石巻市立桜坂高が現役合格を果たした。阿部さんは2013年に開設された人間学部人間教育学科の1期生。初の教員採用試験挑戦で、同学科は受験対策勉強会を開くなど細やかな支援態勢をとった。「合格できたのは先生方のおかげ。途中で諦めず喜びをかみしめる。」

同採用試験の今年度の受験者は919人。52人が2次選考に進み、271人が合格。競争率は3.4倍だった。「周りが就活を進めるなかで、受からなかったらどうしようと不安だった」と振り返る。2次選考は面接官の前で行う「模擬授業」。何の授業をするか、課題は当日発表という難問だ。阿部さん

09755で開催された。前回大会で初出場初優勝を挙げた女子競走部だが、今大会は1時間13分44秒で2位。連覇はならなかった。今年度は19チームが出場。女子競走部は▽1区川崎美祈さん(人間2・山形県山形城北高)▽2区・区間2位▽2区司琴美さん(経営1・宮城県聖和学園高)▽3区・区間賞▽4区・区間2位▽4区・区間2位▽5区原田詠麻主将(経営2・静岡県静岡北高)でタスキをつないだ。

遠藤さん(右端)と団体戦のメンバー

「自動車の将来と電気自動車の構造について」がテーマの今回は、5年生35人が参加した。ガソリン車から電気自動車への変化について説明した後、ソーラーバッテリー付き電気自動車模型を作った。児童たちは学生のサポートを受けながら、熱心に組み立てを行い、完成した模型が走行すると歓声をあげていた。

阿部さん 現役合格 宮城県公立小学校教員

同採用試験の今年度の受験者は919人。52人が2次選考に進み、271人が合格。競争率は3.4倍だった。「周りが就活を進めるなかで、受からなかったらどうしようと不安だった」と振り返る。2次選考は面接官の前で行う「模擬授業」。何の授業をするか、課題は当日発表という難問だ。阿部さん

連覇ならず2位 宮城県女子駅伝 第33回宮城県女子駅伝競走大会が11月23日、大崎市の化女沼古代の里を発着点とする5区間、21

る人々の思いに接し、生まれ育った石巻で先生になろうと決意した。小学校時代、忘れられない先生が2人いる。水と塩を使ってアイスを作る理科の実験で好奇心を高めてくれた先生と、友人関係で登校できなくなった時によく話を聞いてくれた先生だ。「小学校は子どもや地域にとって重要な場所。行きたいと思える学校・学校づくりに努めたい」という言葉に実感がこもる。赴任先発表は来年2月下旬。

遠藤さん優勝 全国大学簿記大会3級

石鳳会計研究会の遠藤愛美さん(経営2・宮城県石巻商業高)が、2016年秋季全国大学対抗簿記大会(11月12日、資格の大原・大原大学院大学主催)の個人戦3級の部に出場し、100点満点で優勝を果たした。団体戦3級の部では石鳳会計研究会Bが2位と健闘した。同大会は簿記のインナーカレッジと呼ばれ、今回で58回目。153級の団体戦・個人戦に、合わせて全国74校1861人が出場した。練習でもなかなか出なかった満点での優勝に遠藤さんは「先生の指導や家族の支えが励みになりました。前回の経験を生かし、落ち着いて問題を解くことができました。今後は2級での優勝を目指して頑張ります」と笑顔で語った。

